

20回演奏会曲目解説

1 ファンファーレ (Southern Music)

タイトルが示すとおり演奏者は3人づつ2つのグループに分かれ、片方は金属系の鍵盤打楽器を演奏し、もう片方は太鼓系の打楽器を演奏する。鍵盤楽器の楽譜は通常の音符の書かれ方をしているが、太鼓の方は見えない点や線で図形的に書かれていて、音量の変化は点の大きさや線の太さで表現されている。1970年にテキサス大学打楽器アンサンブルにより初演されている。

2 二つの儀式 (Music for Percussion)

ゆったりしたテンポで静かに淡々と流れる前半と、一転して早いテンポでリズムカルになる後半との対比がおもしろい作品。

3 舞踏組曲 (Japan Percussion Center)

2001年4月10日作曲。同年6月広島にて開催した『吉岡孝悦とゆかいな太鼓の仲間達』のコンサートで初演。同年12月5日改訂。2002年1月、台湾にて朱宗慶打撃楽団の演奏で改訂初演。

曲は、1 アダージョ・トランキーロ、2 プレスト・コン・モート、3 モデラート・ペザンテ、4 アレグロ・ヴィヴァ・チェの4部構成になっているが、全てアタッカで(続けて)演奏される。オーケストラがピットの中で演奏され、ダンサーが舞台上で踊る、という従来のバレエスタイルを、オーケストラの代わりに打楽器アンサンブルがピットの中で演奏され、モダンバレエの振付けがされることを想定して作曲。(作曲者記)

4 幻のトレイン (HoneyRock)

この列車はもちろん新幹線ではない。蒸気機関車に引かれた汽車のことだと作者は言っている。曲は汽車がゆっくりと発車する場面から始まり、トンネルをくぐり、踏切を通り風景の移り変わる様子が描かれている。やがて汽車は異国の世界、未知の世界に消えていく……。最近とても人気のある曲で演奏される機会も多い。

5 ジャズ バリエーション(Boston Music)

ジャズの技法で書かれた作品。作曲者はアメリカのイーストマン音楽大学で教える打楽器奏者で、打楽器アンサンブルの作品を数多く発表している。特に「打楽器アンサンブルのための序曲」は人気がありタム・ラム・ラでも以前演奏した。

6 フェイズ ダンス (Sierra Music Publication)

原曲はジャズギタリスト パット・メセニーの作品で、世界中でヒットした彼の代表作。フュージョンの名作と言われている。1978年の作品。

7 ソロドラムセットと打楽器のための組曲 (Kendor Music)

ドラムセットを中心にラテン、アフロ・キューバン、サンバのリズム(グループ)を用いて、ダンスブルな曲となっている。タイトルは「組曲」であるが、一続きで演奏される。

ゲスト森泉さんの華麗なドラム演奏をお楽しみください。